

《研究報告》

在宅看護学教育におけるICFの概念活用についての検討

牧 理砂, 又吉 忍, 鍋島 純世, 西村 純子

相山女学園大学看護学部看護学科

要 旨

【目的】 学生に在宅看護の特徴を踏まえた看護過程の理解を促すためには、ICFの概念を用いることが有効とされているため、ICFの概念活用の示唆を得ることとする。【方法】 医中誌webとCiNii Articlesを用い、キーワードに「ICF」、「在宅看護」を指定して、文献検索を行った。分析対象は、抽出された論文のうち、看護教育の場面で検討を行っている論文6件とした。【結果】 在宅看護学で重要視している視点が、ICFの概念の一部の側面と共通することについては述べられているものの、ICFの概念の6項目（健康状態・心身機能・活動・参加・個人因子・環境因子）を活用し、在宅看護学における看護展開に使用できるツールの開発には至っていないことが明らかとなった。【結論】 在宅看護学の教育におけるICF概念の具体的活用方法を検討していくことの必要性が示唆された。

キーワード：看護教育, 在宅看護, ICF